

市民会館跡地等利活用基本計画

令和4年12月

氷見市

目 次

1. 建築敷地条件、現況整理(課題整理) -----	1
2. (仮称)ひみ発見館の基本的な考え方 -----	2
3. (仮称)ひみ発見館の機能 -----	4
4. 教育文化センターとの機能分担や相乗効果に関する計画 -----	6
5. 必要諸室、付帯施設の規模算出 -----	8
6. 配置計画 -----	9
7. 外構計画 -----	11
8. 概算事業費の算出 -----	13
9. スケジュール -----	14

1. 建築敷地条件、現況整理(課題整理)

■ 敷地概要

所在地 : 氷見市本町 4-10
敷地面積 : 4,220 m²
用途 : 商業地域
建蔽率 : 80%
容積率 : 400%



市民会館跡地

■ アクセス性と周辺環境

主要道路に面しておらず、前面道路幅員もやや狭いため、自動車でのアクセス性が高くありませんが、氷見駅から 500m 圏内に位置し、駅利用者が最初に訪れやすい場所となります。

また、教育文化センターや湊川沿いの遊歩道と上日寺に至る市道に接しているため、教育・文化の利便性が高く、一街区をまたいで商店街の通りがあります。

■ 跡地の現状

市民会館の解体後は碎石敷となっており、現在はまちなかめぐり無料駐車場として利用されています。

市民会館跡地西側の市道とは約 1m 程度の高低差があり、趣がある石積みの擁壁が残っています。

市民会館跡地南側の市道は都市計画道路朝日公園線 W=12m となっており、現道から約 4m セットバックしたラインまでが都市計画道路となります。

また、市民会館の解体時に国費が充てられており、令和 5 年までに広場を整備する必要があります。

2. (仮称)ひみ発見館の基本的な考え方

■ (仮称)ひみ発見館の基本的な考え方

(仮称)ひみ発見館は、「氷見まちなかグランドデザイン」(平成30年3月)において、氷見の歴史・文化の再発見などを通して、交流と憩いを創出する『交流・憩いのゾーン』に位置し、「図書館、博物館と一体となった“水とみどりの憩いの空間”」が基本的な考え方となっています。

また、市民交流と誘客を促進する水とみどりの憩い空間としての整備は

1・図書館・博物館と連携した施設計画を進め、ふるさと学習の拠点として活用

2・幼児連れの親子、中高生、高齢者など、誰もが利用しやすく、

湊川の親水空間と一体となった施設

とした方向性が示されました。具体的には、ふるさとアーカイブ、カフェ、こども図書館、トイレ・授乳室、中高生の居場所とした施設構成です。

「氷見まちなかグランドデザイン」から次の段階として検討された「市民会館跡地等利活用検討委員会」(令和3年3月)において、(仮称)ひみ発見館の機能は

1・子ども・若者を含む市民が、自然と集い、参加し、活動や学びが生まれ、

その魅力に惹きつけられて、観光客が訪れる場づくりを目指す。

2・氷見の伝統や歴史を学び、再発見し愛着を育む空間づくりを目指す。

3・湊川のウォーターフロントの魅力を活かすとともに、ニーズの変化に備えた

フレキシブルなレイアウトづくりを目指す。

という方向性となり、施設構成は、ふるさとアーカイブ、カフェ、こども図書館の他、中高大生の居場所と曳山の展示(1基)が加わり、また、教育文化センターについては、耐震化、空調設備、外壁改修など将来にわたって活用できるよう整備することとし、加えて、旧南大町こども園については、将来的には土地も含め民間への売却も検討することとなりました。

今まで議論されてきた基本的な考え方は踏襲し、「市民会館跡地等利活用検討委員会」で示された方針や施設構成について、より具体的に、さらに活用するために、市民の皆さんからの意見を反映させることとし、その手法としてワークショップを開催しました。

その結果、基本的な考え方を以下のとおりと取りまとめました。

図書館や博物館、朝日山、湊川との近接性を活かし、氷見の「歴史・文化」を再発見できる市民や観光客の「水とみどりの交流と憩いの空間」として整備します。

● 市民会館跡地等（教育文化センターを含む）に求める機能

（１）氷見の「歴史・文化」等の発信拠点

（ふるさとの偉人展示、まつり体験、曳山・太鼓台展示）

「（仮称）ひみ発見館」の周辺は、歴史文化をめぐる上日寺、朝日山公園など歩いて廻れる立地にあります。隣接する博物館とともに歴史文化を学び、体験し、発信できる場所です。

（２）氷見まちなかの憩い空間とまち歩き拠点（多目的体験広場、カフェ）

JR 氷見駅から徒歩圏内であり、観光客がまんがロードのまち歩き途中、休憩として立ち寄り、いろいろな情報を得ることができます。また市民の方たちの日常の憩いの場として、佇むことができる場所です。

（３）子どもへの読み聞かせや親同士の交流を図る、

本を通じた子育て支援の拠点（こども図書ラウンジ）

絵本を親子で見る、読み聞かせのできる空間のある、ゆっくり過ごせる居心地よい場所です。本を通して親同士の交流や、こどもたち同士の交流も促せる気持ちの良い空間です。

（４）水辺の憩い広場（湊川のウォーターフロントの魅力を感じる憩いの広場）

湊川に沿う、立地性を活かした親水空間や、潤いある外部空間と施設が連続する空間とし、市民や訪れた人が心地よく快適に過ごすことができます。

（５）中高大生の居場所（静かに学ぶ学習スペース、アクティブに活動できるスペース）

歴史文化を学べる場や、憩いの場でもあり、中高生や大学生の若い世代の方も自主学习や友達と交流を深める場所として過ごすことができます。

3. (仮称)ひみ発見館の機能

ワークショップを行い、様々な意見を検証し以下の結論としました。

● (仮称)ひみ発見館に求められる機能の必要性

第1回ワークショップを行い、様々な意見を検証し以下の結論としました。

① 氷見の「歴史・文化」等の発信拠点としての必要性

氷見はいろんな景観が楽しめますが、観光の情報がわかりにくいといわれています。その為、観光案内の拠点や情報発信する場が必要です。また、氷見には美味しい食材が豊富で魅力的な食文化があるので、その魅力をブランディングへとつなげる拠点とする必要があります。さらに、氷見は祭りが多く、氷見の祭りをまとめて情報発信、体験する場がありません。そのため、祭りの体験館としての機能が必要です。

② 氷見まちなかの憩い空間とまち歩き拠点としての必要性

中心市街地においてコミュニティーの核となる拠点は他にはなく、市民交流から観光交流に至るまで様々な交流の核となる施設が必要です。この施設が交流の場を提供するだけでなく、氷見のまち歩きの中心として情報発信の役割も必要です。

③ 子どもへの読み聞かせや親同士の交流場としての必要性

現在の図書館内にある児童コーナーは一般の図書コーナーと空間が繋がっています。そこで、周りを気にせず、より本に親しめる空間として「こども図書ひろば」を新たに設けます。ここでは、紙芝居や読みきかせ、親同士の交流も深まります。

④ 水辺の憩い広場としての必要性

ウォーターフロントと一体的な公園として、憩いと潤いの空間を整備します。湊川倉庫とも連携するカフェを設け、様々な催事にも活用できる工夫を施すことで、街並みに賑わいを創出できます。

⑤ 中高大生の居場所としての必要性

市内には、中学生や高校生さらに学生が放課後や休日等過ごす居場所がおおくはありません。中高大生が気軽に立寄って勉強や友達とおしゃべりできる空間が必要です。

● (仮称) ひみ発見館の利用層

① 市民

日常的な利用としては、平日休日問わず高齢者が最も多いと考えられます。
また、日中は幼児と保護者の利用も一定数いると考えられます。
土日や夕方は小中学生や高校生が利用すると考えられます。

	平日		休日	
	昼	夕	昼	夕
高齢者	多	普	多	普
幼児・保護者	多	小	多	小
学生(中高大生)	小	多	多	多

② 観光客

観光客には日帰り近郊型、泊まり型、立ち寄り型があります。
日帰り近郊型は土日のイベント等を目指して来館されると考えられます。
泊まり型は泊りがメインで、その前後に観光をめぐる際の拠点として利用する可能性があります。

	平日		休日	
	昼	夕	昼	夕
日帰り近郊型	多	小	多	小
泊まり型	多	普	多	普
立ち寄り型	多	普	多	普

● 各機能の順位付け及び取捨選択

採用する機能		
① 公園	② ひみの祭り体験施設	③ 子ども図書館
④ 情報発信施設(ふるさとアーカイブ、氷見のまち歩き、氷見ブランド)		
⑤ 軒下空間	⑥ 映像情報発信設備	⑦ 多目的体験広場

採用しない機能		
① パーソナルスペース	② カラオケ・ビリヤード	③ ワークスペース
④ ドックラン	⑤ 釣り堀	

4. 教育文化センターとの機能分担や相乗効果に関する計画

(1) 第2回ワークショップにおける意見

テーマ「教育文化センターの4階の利活用について」

- 新たな機能
- ・健康促進の場（ダンススクール、トレーニング、卓球）
 - ・学習、仕事の間（自習・学習スペース、コワーキングスペース）
 - ・催事の場（イベント会場、パーティースペース、VR体験）
 - ・遊び、趣味の場（オセロ、囲碁、将棋、カラオケ）
 - ・文化活動の場（ミニシアター、ものづくり体験、本の冊子市場、小美術館）

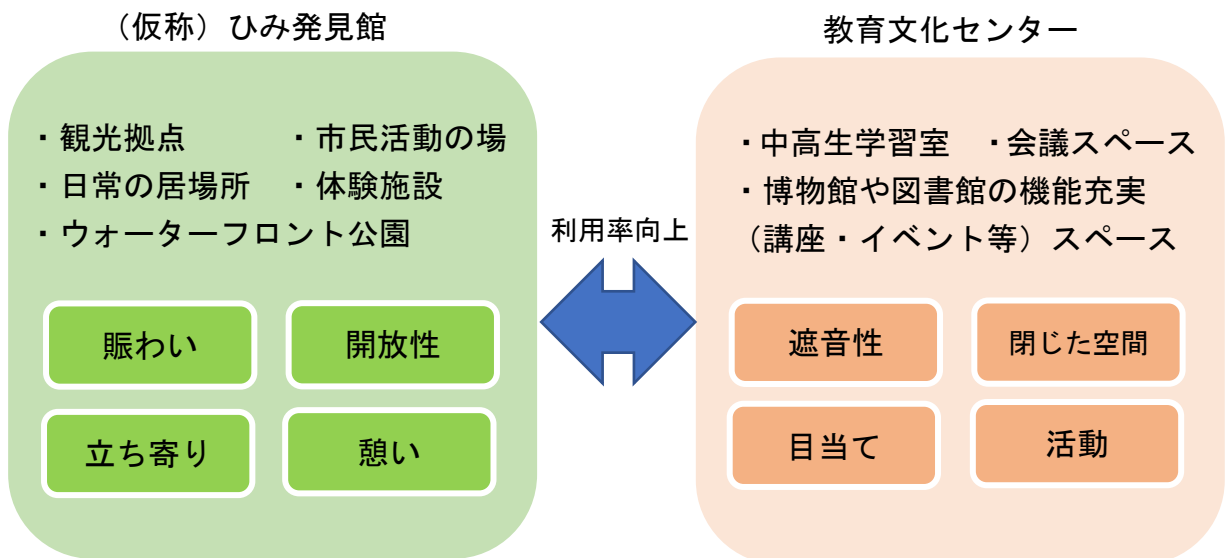
- 一体的な計画
- ・（仮称）ひみ発見館と教育文化センターの全体利用計画を検討
 - ・（仮称）ひみ発見館建設と併せて教育文化センターも建て替え
 - ・教育文化センターは取り壊し、（仮称）ひみ発見館の充実

- 新たな機能
- ・市民活動の場として部屋ごとに貸し出し
 - ・民間企業に貸し出し
 - ・貸倉庫や、貸スタジオ、貸会議室としての利用

(2) 第2回ワークショップにおける意見から機能分担や相乗効果について検討

第2回ワークショップの意見内容から、教育文化センターと（仮称）ひみ発見館の性質に合わせた機能分担を検討し、以下の内容が望ましいとしました。

ただし、教育文化センターの解体を前提とした（仮称）ひみ発見館との一体整備については上位計画との整合性が取れないために検討から除外します。



(3) 機能分担の考え方

- ①「中高大生の居場所」機能を教育文化センター4階に持たせます。眺めがよく、落ち着いて学習できる場としての利用とともに、中高大生のアイデア次第でアクティブな活動などにも対応できる場として活用します。
- ②朝日丘地区の投票所や津波等防災時の避難所としての機能も併せ持ちます。
- ③当面は、現状を維持しながら活用を図るものとし、将来の耐震や空調工事を行う際に検討して必要な工事を行うこととします。

(4) 相乗効果の考え方

- ①図書館で学習する中高大生が4階に上がることで、学習スペースが確保できるようになります。
- ②4階利用の中高大生が一時的憩いや休憩のためにカフェを利用することができます。
- ③(仮称)ひみ発見館と博物館との連携により、観光客を博物館に誘導することができます。

5. 必要諸室、附帯施設の規模算出

○必要諸室規模

1 F

・こども図書ラウンジ	・ 55 m ²
・映像ブース	・ 10 m ²
・ひみの祭り体験、曳山太鼓台展示	・ 50 m ²
・カフェ	・ 50 m ²
・多目的体験広場	・ 90 m ²
・展示スペース	・ 15 m ²
・トイレ、階段、E V等共用施設	・ 40 m ²

2 F

・ふるさとアーカイブ	
多目的展示	・ 95 m ²
常設展示	・ 55 m ²
映像ブース	・ 10 m ²
・トイレ、階段、E V等共用施設	・ 40 m ²

合計床面積	510 m ²
-------	--------------------

○附帯設備

・軒下空間	・ 140 m ²
・第1期公園整備	・ 850 m ²

6. 配置計画

■配置ゾーニング

(仮称)ひみ発見館は教育文化センターに面して配置し、教育文化センターとの連携に配慮します。また、湊川沿いに親水空間として親しみのある広場を配置し、敷地と道路との高低差は階段を設け湊川への行き来に配慮します。

駐車場は南東側にL型で配置し、緩衝地帯として(仮称)ひみ発見館を囲むように広場を設けます。

■建物ゾーニング

1階

・こども図書ラウンジ

教育文化センターに面して設け、図書館とのアクセス性に配慮します。

・映像ブース

こども図書ラウンジに隣接して設け、一体利用します。

・ひみの祭り体験、曳山太鼓台展示

駐車場に面して設け、山車の出し入れに配慮します。

・カフェ

湊川の眺望が眺められ、湊川沿いの賑わいづくりに寄与するため、広場に面して設けます。

・多目的体験広場、展示スペース

各諸室に面して多目的体験広場を設け、様々な活動に対応可能とします。

2階

・ふるさとアーカイブ

氷見の偉人等を紹介する常設展示や企画展示を設けます。



7. 外構計画

(1) 外構計画のコンセプト

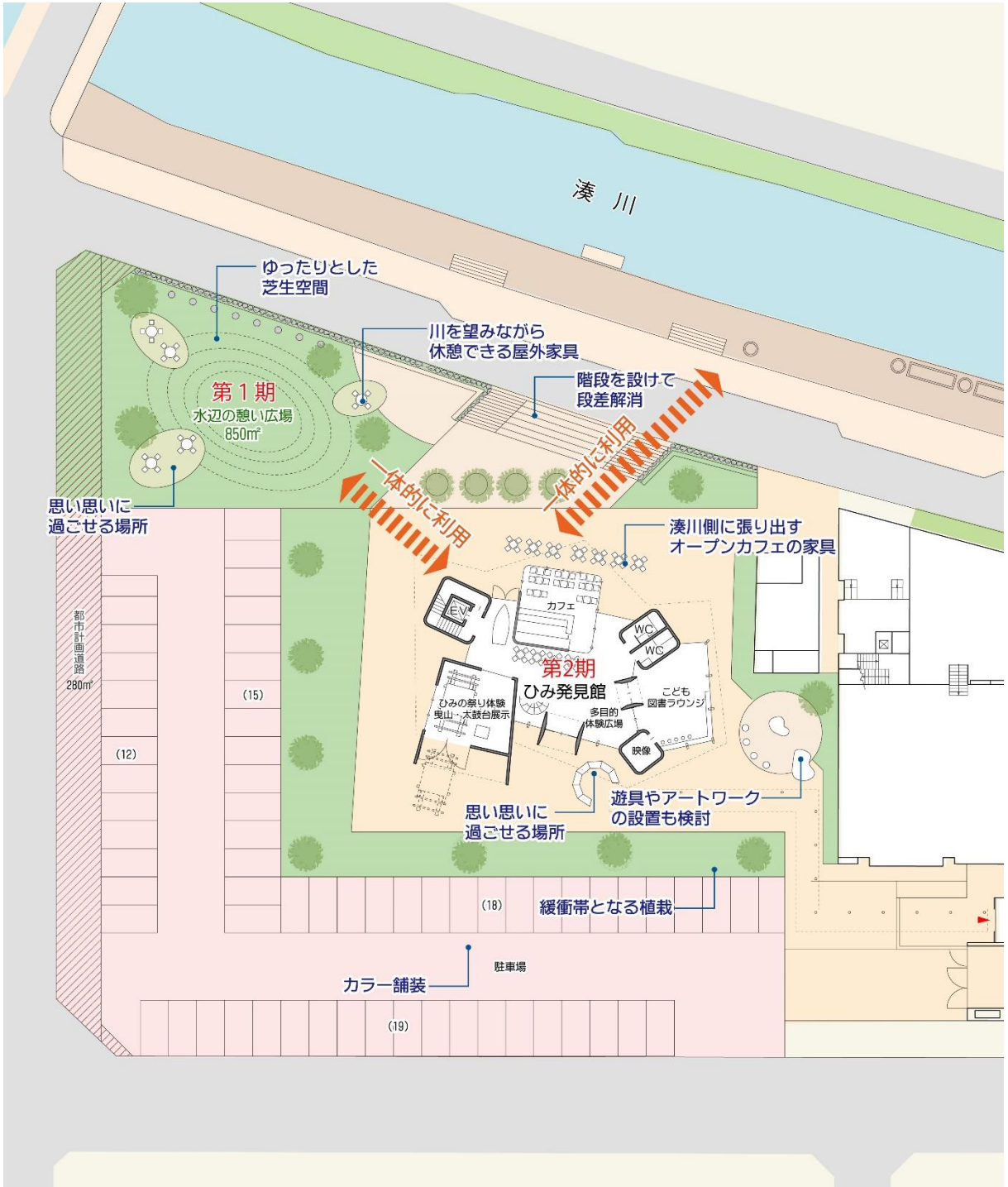
- ・豊かな湊川の親水空間として「水辺の憩い広場」を整備します。
- ・「水辺の憩い広場」と「(仮称)ひみ発見館」が連携し一体的に利用できる計画とします。
- ・観光客と市民、または市民同士の交流の場として、憩い、集い、立ち寄りたくなる場所をつくります。

(2) 水辺の憩い広場 (第1期整備)

- ・ウォーターフロントの魅力を生かし湊川側面にゆったりとした芝生空間を整備します。
- ・湊川沿いの道路との段差(最大約1メートル)には階段等を設置します。
- ・川を望みながら休憩できる屋外家具を設置します。
- ・(仮称)ひみ発見館の整備後は一体的に利用できる計画とします。

(3) (仮称)ひみ発見館の外構計画 (第2期整備)

- ・駐車場と建物間に緩衝帯となる植栽を設け(仮称)ひみ発見館のハレ感を演出します。
- ・水辺の憩い広場と調和させ、緩衝帯には芝生を張ります。
- ・植栽については、氷見の花木であるツツジやタブノキのほか、季節感あふれるサクラ、モミジ、ハナミズキ、サルスベリ等を検討します。
- ・駐車場の舗装は賑わいを演出するためにカラー舗装を基本とし、カラーアスファルト舗装や瓦ダスト舗装を検討します。
- ・建物まわりの舗装は、瓦ダスト舗装やレンガ、インターロッキングなど単調にならない種類、素材、色を検討します。
- ・また、雨の日にはすべりにくく、夏の日には高温になりにくい保水性舗装材についても検討します。
- ・建物のまわりには屋外ベンチやテーブルを点在させ、訪れた方が思い思いに過ごせる居場所づくりをします。



8. 概算事業費の算出

<第1期整備>

事業費 30,000 千円（国の都市構造再編集中支援事業として実施）

項目	数量	金額（千円）
測量設計費	一式	3,000
広場	850 m ²	27,000

標準工期：測量・実施設計 5 ヶ月、工事 6 ヶ月（6 月～11 月・芝生養生のため 3 月まで保全）

<第2期整備>

建築事業費 400,000 千円

項目	数量	金額（千円）
設計監理費	一式	28,000
・基本設計		5,000
・実施設計		16,000
・監理		7,000
建築工事費	延床面積 510 m ² × @600 千円 = 306,000 千円 外部庇面積 140 m ² × @300 千円 = 42,000 千円 外構、駐車場整備 3,000 m ² × @8 千円 = 24,000 千円	372,000

標準工期：基本設計 4 ヶ月、実施設計 6 ヶ月、工事期間 11 ヶ月

④展示関係経費 50,000 千円

項目	数量	金額（千円）
展示関係経費	映像展示、展示ケース等 一式	50,000

合計事業費	水辺の憩い広場整備 30,000 千円 （仮称）ひみ発見館建築事業費 400,000 千円 展示関係経費 50,000 千円	480,000
-------	--	---------

財源について

令和3年10月に作成した中長期財政見通しでは、市民会館跡地等利活用検討事業について令和4年度から7年度までの事業期間に4.8億を過疎債で充当することを仮定しています。なお、その他の財源については地方創生拠点整備交付金（補助率1/2）や、展示関係経費については文化庁の文化観光拠点施設機能強化事業等補助金（補助率2/3）など有利な財源の申請と確保を目指します。

9. スケジュール

(1) 水辺の憩い広場（第1期整備）

①整備内容

- ・ウォーターフロントの魅力を生かし、湊川側面に「水辺の憩い広場」を整備します。
（計画面積850㎡）
- ・芝生のゆったりとした空間とし、（仮称）ひみ発見館の整備に支障なく、整備後に一体的に利用します。
- ・跡地と川に面した道路との段差（最大約1メートル）には階段等を設けます。

②スケジュール

令和4年度中の実施設計を目指し、令和5年度中の完成を図ります。

(2)（仮称）ひみ発見館整備（第2期整備）

①整備内容

（2階建延べ床510㎡、外部庇140㎡、外構・駐車場3,000㎡）

- ・曳山や太鼓台の展示については、その方法等について今後地元等と調整して検討します。

②スケジュール

令和4年度は、地元等との調整の期間とし、パブリックコメントを経た後、基本計画を決定します。令和5年度に基本設計、令和6年度に実施設計を行い、令和7年度以降に整備を行います。

名称		実施年度
水辺の憩い広場 （第1期整備）	実施設計	令和4年度
	工事	令和5年度
（仮称）ひみ発見館 （第2期整備）	地元等との調整	令和4年度
	基本設計	令和5年度
	実施設計	令和6年度
	工事	令和7年度以降